

●三位一体後第三主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第十二編」

人は友に向かつて偽りを言い

滑らかな唇、二心をもつて話します。

主よ、すべて滅ぼしてください

滑らかな唇と威張つて語る舌を。



## 祈りは主イエスと共に

祈りを教えるとは、祈りの言葉や作法を教えることではありません。それは神さまを教えることであり、神さまと自分の関係を教えることです。

子どもの頃から、祈りを知っている弟子が主イエスに「祈りを教えてください」とお願いしたのは、主イエスが自分よりも神さまに近くで祈っているからだと思います。どうすれば、あなたと同じところで祈れるのか、と訊いたのです。

その願いに応えて主は「主の祈り」を教えてくださいました。その最初の言葉が「父よ」です。主は神さまを「お父さん」と呼ぶことを、教えてくださったのです。

主が教えてくださった祈りの言葉の多くは、他のラビと呼ばれる先生たちも教えたものです。でもひとつだけ、他の人たちが教えられなかった言葉がありました。それが「父よ」です。神さまをそんな言葉で呼びよいかわからなかったからです。

でも何の代償もなしに、神さまを父と呼べるわけではありません。この祈りが祈れるように、主は十字架の上で、わたしたちの罪の赦しのために、命を捨ててくださいました。主の祈りは、主が教えてくださっただけでなく、主が可能にして下さった祈りなのです。

主はご自分と無関係な祈りを教えてくださったのではありません。主の祈りは、主ご自身の祈りです。祈りの言葉である「わたしたち」の中に、主はご自分をも加えてくださっているのです。

「わたしたちに必要な糧を今日も与えてください」という祈りがあります。冷蔵庫に食べ物がたくさんあっても、この祈りを祈ります。「わたしたち」の中には、食べ物に苦勞している人がいるかも知れないからです。世界の人々をもその中に加えれば、この祈りはもつと真剣な祈りになります。そして主イエスご自身もまた、この祈りを祈ってくださいるのです。

「わたしたちの罪をお赦しください」と祈ります。主はただ一人、この祈りを必要としない方です。でも主イエスもこの祈りを祈ります。「わたしたち」の祈りだからです。そしてわたしたち自身よりも、わたしたちの罪を心にかけて、その赦しのために、主は命を捨ててくださいました。

「わたしたちも自分に負い目のある人を皆赦しますから」と祈ります。わたしたちは、心の痛みを覚えずにこの祈りを祈ることができません。赦していない人、赦せない人がいるからです。でも主イエスはこの祈りを祈ることができません。そしてこの祈りの中にわたしたちを引きずり込んでくださるのです。その恵みの中で、わたしたちも「あの人を赦そう」と小さな決心をすることができます。

教会の会議の最後に、一緒に主の祈りを祈ります。会議で真剣な議論をすると、心ならずも相手を傷つけたり、傷つけられたりします。でも終わりに、主の祈りを祈って、罪の赦しを願い、相手の罪をも赦します。この祈りに支えられて、教会の働きはなされるのです。

(ルカ一章一〜四節 吉村和雄 名誉牧師)

---

## 《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

---

## 《2026年度

## 教会全体課題》

神さまによって

示された新しい歩みの中で、

キリストの体として的一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、

伝道、学びなどを通してー

---

---

## 《今日のお知らせ》

○定例役員会をカナルルームで行います。役員の方はお集まりください。

---

## 《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

---

---

## 《ルツの会より》

次週、礼拝後、ルツの会を地下ホールで行います。民教記二五章を学びます。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

---

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

〔詩篇十二篇〕 指揮者によつて。第八調。

賛歌。ダビデの詩。

主よ、お救いください。

主の慈しみに生きる人は絶え

人の子らの中から

信仰のある人は消え去りました。

人は友に向かつて偽りを言い

滑らかな唇、二心をもつて話します。

主よ、すべて滅ぼしてください

滑らかな唇と威張つて語る舌を。

彼らは言います。

「舌によつて力を振るおう。自分の唇は自分のためだ。

わたしたちに主人などはない。」

主は言われます。

「虚げに苦しむ者と

申している貧しい者のために

今、わたしは立ち上がり

彼らがあえぎ望む救いを与えよう。」

主の仰せは清い。

土の炉で七たび練り清めた銀。

主よ、あなたはその仰せを守り

この代からとこしえに至るまで

わたしたちを見守ってくださいませ。

〔司・会〕

主に逆らう者は勝手にふるまいます。

人の子らの中に

卑しむべきことがもてはやされるこのとき。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「人間を獲る漁師になる」

聖書 ルカ5章1〜11節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「良い羊飼いがおられる」

聖書 マタイ9章35〜10章7節

説教者 宮間 彰広 兄

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讚美歌 73番 329番

説教 「祭司の王国、聖なる国民」

聖書 出エジプト19章1〜6節

説教者 黄允湜 牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 500番 275番  
説教 「神に覚えられた異邦人」  
聖書 使徒10章1～8節(新約P.232)  
司式 山下 純一 兄  
聖餐司式 黄 允湜 牧師  
説教者 宮間 彰広 兄

前奏曲「まこともて主を言い表す者をば」  
(カンタータ第45番より) J.S.バッハ

### ○讃美歌500番

1. みたまなるきよきかみ わがよわきたましいを  
主のもとにみちびきて かくれしめたまえかし ※  
(※くりかえし)

みたまよ みたまよ わがたまぞ あこがるる  
縫りまつる手をばとりて 主にみちびきたまえかし

2. おののける手をささぐ ねがわくばとりたまえ  
みめぐみのきみならで たれかよく主をしめさん※

3. あたいなきわが身をも なみだなく死もあらぬ  
とこしえのみにへと きみはしも入れたまわん※  
アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

### ○聖歌隊による讃美

「主の眼差しは」 チャールズ H. ガブリエル作曲  
力失い暗い影に覆われる時  
主を見上げる  
主はわがすべて 変わらぬ友  
小さい雀にさえ 目を留められる  
喜び歌おう 主の眼差し  
私の上にもいつもあるから  
主の御言葉に養われて  
我らの心 平安満ちる  
主の導きに 恐れ消え去る  
小さい雀にさえ 目を留められる  
喜び歌おう 主の眼差し  
私の上にもいつもあるから

### ○讃美歌275番

1. つよき神の子 朽ちぬ愛よ  
われらは君を 見るをえねど  
見るにもまして いとさやかに  
信仰によりて 君をあおぐ

2. 君こそきよき 神のすがた  
うえなく高き 人の子なれ  
我らが意志を さずかりしは  
ふたたび君に かえすためぞ

3. 知識はうつり すたりゆけど  
ただ信仰こそ とこしえなれ  
ひとの知識は 君のひかり  
ほのかに映す ひらめきのみ

4. 知識の増すに いやまさりて  
うやまう心 深まりゆき  
こころと魂と ひとつに合う  
たえなる調べ かなでよかし

アーメン

聖餐曲「なぐさめ」 F.リスト

後奏曲「我は心より汝を愛す、おお主よ」 J.G.ヴァルター